



平成24年県議会
9月定例会一般質問

富士北麓観光の グレードアップに諸施策を

私は真の国際観光地への方向を目指すべきだと、県への支援を訴えてまいります。

「西湖湖畔より富士山を望む」 撮影：白壁 賢一



山梨県議会議員
白壁賢一 【しらかべ けんいち】
1960年生まれ。93年に33歳で河口湖町議に初当選。3期務める。
2003年に富士河口湖町議に当選し2期。この間、議員などを兼任。
07年に山梨県議会議員に初当選。自民党 県民クラブに所属。

TEL 0555-73-3737 FAX 0555-73-3757

〒401-0301 山梨県南都留郡富士河口湖町船津1505

白壁賢一 公式サイト：http://www.shirakabekenichi.jp/

白壁賢一 E-Mail：Shirakabe@kawaguchiko.ne.jp

山梨県議会議員
白壁賢一



お気軽にご意見を
お聞かせください。

「白壁賢一」で検索してください!

白壁賢一

検索

明日の街を元気に！
もっともっと

県道山中湖忍野富士吉田線については、平成18年にいわゆる1市2村連絡道の開通により忍野村・富士吉田市間のアクセスが格段に向上し、その効果は、地元住民の使い易さばかりでなく、国道138号の代替道路として、休日や観光シーズンの渋滞対策にもなっております。

しかし、忍野村忍草地区内の現道との丁字交差点は、周辺の商業施設駐車場への出入口と重複し、右折レーンも設けられていないため、朝夕には交通の混雑が見られます。

また、地域の通勤や通学路として、歩行者も多く、生活に密着した道路でもあることから、危険な状況は一日も早く解消しなければならず、交差点

忍野村内の交差点改良について 危険な状況解消、急いで実施を

横内知事 下山道は、落石事故後設置された「富士山落石災害対策 技術検討委員会」において、



忍草地区信号設置と交差点改良

崩落を起す溶岩の露出部分がなく、自然落石による災害の危険性が少ないこと、横断部を除き落石が集中する状況ではないことなどから、現在のルートに決定し、逐次対応策を講じていると認識しております。

「地域の生命線」改良は不可欠

▽国道413号は、道志村にとって唯の生活幹線道路であり、災害などが発生した際にも緊急輸送路として重要な役割を持つ村の生命線であり、

また、首都圏方面から富士山・富士五湖のアクセス道路であるとともに、観光道路としての要素を持ち合わせており、平成16年には開設が決定されている圏央道横断原インターチェンジに接続するため、観光の需要は今後も増すものと思われる。

しかしながら、県境の野原・大渡から月夜野間、急カーブが連続し、見通しも悪く、死亡事故も発生している。

また、沿線には峻険な地形のため、災害の危険性も高く、雨期制による通行止めが、毎年のように発生する状況であり、その度に、ここで暮らす人々の生活に、多大な不便を強いられている。

忍野村忍草地区の排水対策について 住民含めた関係者で協議を

川から水が溢れ、床上浸水が発生するなど、深刻な事態です。

近年、地球温暖化に伴う集中豪雨の激化や台風の大規模化が指摘される一方、宅地開発が進行している忍草地区の排水対策については、土地利用も含めて、地域全体で取り組むべき重要な課題であります。

川から水が溢れ、床上浸水が発生するなど、深刻な事態です。

近年、地球温暖化に伴う集中豪雨の激化や台風の大規模化が指摘される一方、宅地開発が進行している忍草地区の排水対策については、土地利用も含めて、地域全体で取り組むべき重要な課題であります。

滋賀県大津市の中学校において、生徒が自ら命を絶つという痛ましい事件が発生し、いじめ問題が全国的に大きな問題となっております。

今発表された平成23年度問題行動調査によると、本県におけるいじめの認知件数は575件と平成22年度より62件増加し、そのうち中学校においては330件と過去最多の件数となりました。

本県でも、スクールカウンセラーの配置や24時間電話相談など、さまざまな対策を行っていますが、いじめの減少に大きな効果は上がっていないと懸念されます。

私はいじめ問題への対策としては、何よりも早期発見・迅速対応を図ることが必要であると考えています。

そのためには、現状の対策だけでなく、教員・児童・生徒一人ひとりに対し、目配りが十分行われ、少人数学級の更なる拡大、教員増を行うとともに、市町村によって配置された非正規教員の現状を把握したうえで、資質向上を図っていくことが不可欠であります。

また、いじめは学校教育だけではなく、家庭環境の在り方にも大きな関わりを持ち、家庭との連携や家庭への支援が重要であると考えます。

そこで、こうした点を踏まえ、県では、いじめ問題の解消に向けて、どのように取り組んでいるのか伺います。

滋賀県大津市の中学校において、生徒が自ら命を絶つという痛ましい事件が発生し、いじめ問題が全国的に大きな問題となっております。

今発表された平成23年度問題行動調査によると、本県におけるいじめの認知件数は575件と平成22年度より62件増加し、そのうち中学校においては330件と過去最多の件数となりました。

本県でも、スクールカウンセラーの配置や24時間電話相談など、さまざまな対策を行っていますが、いじめの減少に大きな効果は上がっていないと懸念されます。

私はいじめ問題への対策としては、何よりも早期発見・迅速対応を図ることが必要であると考えています。

そのためには、現状の対策だけでなく、教員・児童・生徒一人ひとりに対し、目配りが十分行われ、少人数学級の更なる拡大、教員増を行うとともに、市町村によって配置された非正規教員の現状を把握したうえで、資質向上を図っていくことが不可欠であります。

また、いじめは学校教育だけではなく、家庭環境の在り方にも大きな関わりを持ち、家庭との連携や家庭への支援が重要であると考えます。

そこで、こうした点を踏まえ、県では、いじめ問題の解消に向けて、どのように取り組んでいるのか伺います。

小中学校におけるいじめ問題について 県教委の具体的な説明を

教育長 いじめの未然防止や早期発見・早期対応には、児童生徒一人ひとりのきめ細かく指導することができる少人数学級が有効であります。

このため、県独自の施策として、小学校4年生以下及び中学校1年生に少人数学級を導入し、それに必要な教員を増員してきたところであり、今後も、国の動向も見ながら、少人数学級更なる拡大について検討してまいりたいと考えています。

いじめをなくするためには、全教職員が、教員一人ひとりが観察力を磨いていくことが重要であることから、「いじめ・不登校指導者研究会」や「生徒指導等研究会」を開催し、この両者による各学校での研究を通じて、全ての教員の問題に対する指導力の向上に努めてまいります。

また、県教委委員会は、本年度、自分や他人の生き方・存在を認め合い、自分を敬愛するを育成する「しなやかな心の育成プロジェクト」を立ち上げ、保護者とともに進める読書活動や「地域に広がるあいさつ運動」など、学校・家庭・地域が連携し取り組む、様々な事業を推進してまいります。



新名庄川の浸水。冠水対策

